

台湾での留学日記

阪南大学国際観光学部 4年 田中友介

台湾での留学日記 1：台湾留学開始

本日 2024 年 9 月 4 日から計 10 か月間の留学生活がスタートしました。関西国際空港から高雄国際空港へ行くと、高雄餐旅大学の学生であり、今回私の留学のバディをしている方が迎えに来てくれました。SIM カードの差し替えや換金を終えると高雄餐旅大学から迎えのバスに乗り大学へ向かいました。



高雄餐旅大学は高雄の小港という地域にあり、落ち着いて人情豊かな人が多い印象です。初日は、入学に必要な申請や宿舎の手続きを終えると、バディの学生とその友達と一緒に火鍋を食べに行きました。火鍋を食べたのは今回が初めてではないですが、新たな生活が始まるという高揚感でよりおいしく感じました。

バディの学生たちと食べた火鍋

二日目は以前から阪南大学に交換留学生としていた高雄餐旅大学の学生と会い、彼と彼の友達と一緒に食事をしました。台湾ではメジャーな、バイクの後部座席に座って、塩酥雞を食べに行き、ショッピングモール内にあるバッティングセンターにも行って楽しみました。

今の自分が抱える課題は言語能力です。簡単な会話はできても、「自分が言いたい言葉

10 か月間と長い期間の留学ですが、結局終わってみれば早かった、と言っている自分が容易に想像できるので一日一日を意味あるものとして過ごしていきたいと思います。はもっとあるのに。」と、その気持ちがなんとももどかしいので、一刻も早く解消できるように、学習にとりかかろうと思います。



バイクでショッピングモールへ向かう様子



台湾の名物「魯肉飯」



2024年9月4日台湾高雄行きの機内にて

台湾での留学日記2

台湾での交換留学が始まってから三か月目に突入しました。この三か月は本当に私の人生を色濃くするもので、新しい刺激や現実的な壁と出会いました。

台風

最初に起きた出来事といえば、2024年10月1日に台湾南部を襲った台風です。私の住む高雄にも台風が来るというニュースが入り、「明日の授業は休校になりZます。」と、クラスのラインに通知が入りました。その時私は、やったー授業が休みだー、寮の友達といっぱいゲームしようーと軽い気持ちで思っていました。しかし台風が直撃した日、ごうごうという風の轟音と木々が横殴りの雨風に打たれている光景が窓から見え、これは普通の台風じゃないなと思いました。まるで外出することはできないので、前日に買ったインスタント春雨を給湯器で入れている途中、突然水が出なくなり、寮の電気がすべて消えました。その停電はエレベーターも使えないので、寮の9階に住む私にとって最悪の出来事がありました。そしてその停電は台風が過ぎ去った後1日、合計で30時間ほど続きました。

台風が過ぎ外に出ると学内の樹木は、冗談抜きで半分以上折れるや根っこから倒れるなど被害を受けており、図書館のガラスを突き破って木が倒れている光景も目にしました。被害は大学だけでなく、木が生えている場所（街路樹、公園、民家やお寺など私有地の木）すべての場所でどれか一本は木が倒れているという状況でした。

ここまで大きい被害のあった台湾高雄ですが、私はこの災害の最中でも台湾の魅力を感じ取ることができました。

停電して夜は電気ひとつない真っ暗の状況で、ある学生は階ごとにある広間でギターと懐中電灯を持ち、皆で歌を歌い、まるで停電の状況を楽しんでいるようでした。

そして、寮のシャワーや洗濯が使えない時、クラスメイトや学校のイベントで知り合った学生たちが「私の地域は停電と停水がないからうちに来ていいよ」と一人ではなく大勢の学生がそう言ってくれました。

飲食店も台風の影響で破損し、営業できなくなっている場所や、店の前に樹木が倒れて

いるなどの状況でしたが、被害が少ない飲食店は台風の後日でも開業し人々に「いつも通りの」食事を提供していました。私もそこで食事をし、感動するほどおいしかったのを覚えています。

学科旅行

11/23-24 は私の学科でのイベントで台湾本島の最南端にある墾丁（クンディン）という地域に一泊二日の旅行をしました。参加者は高雄餐旅大学の日本語学科の一年生二年生四年の内、参加を希望する人で今年は30人弱の学生が参加しました。旅行の計画や予算様々な予約は学生がすべて取り組み、クラスメイトの優秀さに驚きました墾丁は海が近いので潮風が印象的でした。広場に行ってゲームをしたり、鹿がいる施設で様々な体験をしたり、海で泳いだり、お化け屋敷に行ったりと、ここには書ききれないほど楽しい思い出が沢山できました。

写真は高雄餐旅大学の應用日語學系公式インスタグラムをぜひご覧ください。2024.11/24

[HTTPS://WWW.INSTAGRAM.COM/REEL/DCWWR8XTEIV/?UTM_SOURCE=IG_WEB_BUTTON_SHARE_SHEET&IGSH=MZRLODBINWFLZA==](https://www.instagram.com/reel/DCWWR8XTEIV/?utm_source=ig_web_button_share_sheet&igsh=mzrlodbinwflza==)



台風の影響で崩壊した大学付近のコンビニ



強風により折れた校内の木



校門近くの木はほとんど倒れていた



3

木が倒れ、枝草が散乱している校門



太い木と標識が倒れ、道路をふさいでいる



被害に遭った弁当屋さん

台湾での留学日記3

台湾での交換留学が始まってから半年が経ちました。交換留学の終わりまであと三か月しかないと思うと、寂しさを感じます。しかし、この半年間、毎日が新しい発見の連続で、新しい価値観や刺激を体験することができました。

一方で、これは決してネガティブな意味ではありませんが、最近では生活が習慣化しているように感じます。朝は自然と6時頃に目が覚め、趣味である朝活（プールに行く・ウォーキング・単語学習のいずれか）をしてから、授業の準備をします。昼には食堂へ行き、午後の授業が終われば友達とバドミントンや野球をしたり、晩ごはんを食べに行ったりします。そして門限前に部屋に戻って寝る——これが私の一日のルーティンです。私はこの習慣を充実していると考えており、自分にとって最高の環境で思い通りの生活ができていることに幸せを感じています。

ただ、まだ満足していないことがあります。それは、中国語の会話力をネイティブレベルまで上達させることです。台湾での生活を通じて、台湾人と中国語だけで話せるようにはなりました。しかし、自分の話す内容はどこかパターン化されていると感じますし、会話の割合も相手8割・自分2割ほどになってしまい、相槌ばかりの会話になってしまいます。また、時々日本語から中国語、中国語から日本語への翻訳を試される機会がありますが、時間がかかったり、専門用語が分からなかったりしてしまいます。

最近、この目標を少し諦めかけている自分がいます。しかし、台湾という「生きた中国語」を学べる最高の環境にいるのだからと、自分を鼓舞しながら勉強を頑張りたいと思います。

最後に、私の習慣で日記を書いているのでその中のいくつかを紹介します。

30KM の散歩

高雄には、北部と南部をつなぐ一直線の地下鉄ラインがあります。私の通う高雄餐旅大学は、その南端にある駅の近くに位置しています。今回は、大学を出発し、北上して高雄の「岡山駅」まで歩きました。距離はなんと 30KM！ さすがに疲れましたが、今後は高雄から台南まで歩くという野望も抱いています。

頭痛

運動がまだ習慣化する前は、体力が続く限り何かしらのスポーツをしていました。その影響か、翌朝、目の奥がズキズキと痛み、30分ほど頭痛でめまいを繰り返すことに…。結局、病院に行っただけですが、初めての病院で分からないことも多く、大変な経験でした。

極寒のプール

私の通う高雄餐旅大学の近くには、区民プールがあります。50M プールで人も少なく、最高の環境なのですが、ある時期から温度調節装置が故障してしまい、水温 22°Cのまま営業が始まりました。ちなみに、日本の温泉にある一般的な水風呂の水温は 17~18°Cですが、それに近い冷たさです。とはいえ、「寒くて嫌だ」という気持ちよりも「泳ぎたい！」という気持ちの方が勝るので、入水するときは覚悟を決め、気合で泳いでいます。



ゴール地点の岡山駅



大学付近の 50m プール



台湾で有名なスイーツ“豆花”



台湾で一般的な朝ごはんプレート



牛肉麵

台湾での留学日記4

2025年5月に入り、高雄餐旅大学での交換留学も残すところあと約2か月となりました。このレポートを記している現在は6月初頭ですが、4月と5月は本当に濃密で、忘れられない出来事が続いた期間でした。

最後の野球大会と誕生日の思い出

4月には「飛躍盃」という野球の大会がありました。この大会は、私にとっても四年生の先輩方にとっても、台湾での最後の野球大会となりました。私たち高雄餐旅大学の野球部は、練習するグラウンドがなく、陸上トラックの内側で練習するしかないという環境にあります。そのため、戦績としては決して強いチームではありません。しかし、今回の大会では一味違いました。格上の相手に大量得点を許しながらも、最終回で同点まで追い上げる試合が2試合もあり、チーム全体で大きな成長を感じられました。優しくてノリの良いチームメイトたちと過ごした時間は、私にとってかけがえのない思い出です。

また、4月末には私の誕生日があり、クラスメイトが誕生日会を開いてくれました。ご飯をご馳走してくれたり、プレゼントをくれたり、私の大好きなショートケーキまで用意してくれました。交換留学を通して出会った友人たちに、心から感謝の気持ちでいっぱいです。



誕生日会の様子



全ての試合が終わった後の集合写真



飛躍盃の試合開始（人生で一番暑かった）

バドミントン大会とスピーチ

5月には、高雄餐旅大学の学部対抗バドミントン大会が開催されました。私は高校時代にバドミントン部に所属していたこともあり、今回の大会に参加しました。留学が始まってから毎週練習を重ね、大会直前の1週間は毎日練習に励みました。その日々はまさに「青春」であり、高校時代の情熱が蘇るような経験でした。結果は第4位と健闘し、大会終了後にはお互いを称え合いながら、チームメイトと一生忘れられない思い出を共有しました。

また、5月末には「期末大会」という学期末のパーティーが開かれました。これは、私と卒業を迎える4年生にとって最後の大学イベントでもありました。私は「交換生感言（感想スピーチ）」のコーナーを担当し、これまでの留学生生活を振り返るスピーチを行いました。原稿を作成している際は、思い出が胸に込み上げて涙が出そうになるほど感動しましたが、発表時は中国語の発音に集中するあまり、感情を表に出す余裕はありませんでした。それでも、発表が終わった後には多くの拍手をいただき、泣いてくれた友人までいて、この大学で本当に素晴らしい人たちと出会えたのだと強く感じました。お世話になった先生方からも「中国語が上達したね」とお褒めの言葉をいただき、「阪南大学の学生に高雄餐旅大学のことをぜひ紹介してあげてください」とも言っていただきました。



バドミントン大会と期末パーティーの様子

留学を振り返って

これが最後のレポートとなりますが、今回の交換留学は間違いなく、私の人生を大きく変えてくれました。留学を決意した当初は、中国語をマスターして将来のキャリア形成に

役立てたいという思いが中心でした。しかし、実際に得られたものはそれ以上に大きなものでした。

言語や文化、生活習慣、食事など、あらゆる違いと向き合い、それらを乗り越えてきた経験。そして、この大学に来なければ絶対に出会うことのなかった最高の仲間たち。これらすべての出会いが、私にとってかけがえのない宝物です。

私は将来、日本語教師になるという夢を持っています。留学前はその道に不安もありましたが、今では違います。今回の交換留学を通して、日本語学習者の姿勢や、そのサポートのあり方についても多くの気づきを得ることができ、自信へとつながりました。

最後に、今回の留学を支えてくださったすべての方々に心より感謝申し上げます。

最後に、国立高雄餐旅大学とは

国立高雄餐旅大学は、生徒一人ひとりの自主性と仲間意識を大切に、それらを自然と身につけることができる環境が整った大学です。各学科は専門性が非常に高く、実践的な知識と技術を学ぶことができるため、社会に出た際にも即戦力として活躍できる人材を育成しています。

一方で、日常生活では高校時代のような気楽さも感じられ、人々はとてもフレンドリーで温かく接してくれます。気候は台湾の中でも比較的雨が少なく過ごしやすい地域で、大学の周辺には美味しい飲食店も多くあります。また、バスや地下鉄の駅も近く、生活環境にも大変恵まれています。

もし、今このレポートを読んで高雄餐旅大学への留学を検討している方がいれば、自信を持ってその一歩を踏み出してほしいと思います。その決断は、きっとあなたの人生にとってかけがえのない経験をもたらしてくれるはずです。

最後までお読みいただき、ありがとうございました。